授 業 要 項

令和6年度

科目名	統計学				担当者	米澤　久幸、川瀬　翔太			
学　年	2	学　期	後期	学　科	理学療法学科 作業療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 [一般目標]	基礎医学統計学を通して医療の場における統計学的判断とは何か、EBMとは何かを学び、将来、臨床の場における診療指針などに客観的、統計的判断力をもって臨めるような素養を身につけること。		
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]	担当者
	1　統計学の基礎	代表値の理解	米澤久幸 (15h)
	2　基本用語、ヒストグラム	ヒストグラムの作製、正規分布の理解	
	3　平均値の検定(正規検定)	正規検定を学ぶ	
	4　対応のない(独立)t検定	独立なt検定を学ぶ	
	5　対応のあるt検定	対応のあるt検定を学ぶ	
	6　マン・ホイットニー検定	マン・ホイットニー検定を学ぶ	
	7　ウィルコクソン検定	ウィルコクソン検定を学ぶ	
	8　統計・検定のまとめ	検定法の選択と演習	
	9　単純集計の検定	適合度の検定の理解	川瀬翔太 (15h)
	10 クロス集計の検定	独立性の検定の理解	
	11 コルモゴロフ・スミルノフ検定	コルモゴロフ・スミルノフ検定の理解	
	12 1要因の分散分析	一元配置分散分析の理解	
	13 2要因の分散分析	二元配置分散分析の理解	
	14 平均値の推定	平均値の推定の理解	
	15 比率の推定	比率の推定の理解	
	16 相関の検定	ピアソンの積率相関係数の理解	
	17 順位相関の検定	スペアマンの順位相関係数の理解	
	18 回帰直線	回帰式の理解	
	19 統計・検定のまとめ	検定法の選択と演習	
授業形態	講義、演習		
教科書	PT・OTのための統計学入門:三輪書店　ISBN978-4-89590-054-6		
参考書			
評価方法	筆記試験(米澤50%、川瀬50%)		
授業時間外の学習	テキストの類似の例題を復習する		
履修上の留意点	PCとmicrosoft Excelを使用するので持参する		

授 業 要 項

令和6年度

科目名	内部障害学				担当者	神谷　悦功、小川　賢二、奥村　秀則、内海　眞 岡村　菊夫、深見　亜也子、鈴木　道太、濱田　真奈美 中川　誠、梅田　雄嗣、川瀬　翔太			
学　年	2	学　期	後期	学　科	理学療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 [一般目標]	内科学で学んでいない内科学領域でみられる疾患・障害の基礎知識について、病態・評価・治療を中心に学び、その知識に基づいた内部障害に対する理学療法に触れる。		
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]	担当者
	1　老年医学（総論）	老年医学についての基礎知識を理解する。	中川誠（2h）
	2　老年医学（認知症）	認知症の定義と種類、中核症状とBPSD、特徴を理解する。 認知症に関連する評価を理解する。	梅田雄嗣（3h）
	3　老年医学（ターミナルケア）	ターミナルケアについての基礎知識を理解する。	濱田真奈美(1h)
	4　血液内科	貧血、造血器腫瘍、凝固障害などの基礎知識を理解する。	神谷悦功(4h)
	5　免疫アレルギー	アレルギー性疾患の基礎知識を理解する。	小川賢二(2h)
	6　咀嚼・嚥下機能、オーラル・フレイル	口腔・頸部の解剖および、咀嚼・嚥下機能、フレイル、サルコペニアの病態について理解する。	奥村秀則(2h)
	7　HIV感染症/AIDSについて	本疾患の病態、治療、疫学について、その概要を理解するとともに、社旗的偏見の克服について説明できる。	内海眞(2h)
	8　泌尿器	泌尿器科疾患の基礎知識を理解する。	岡村菊夫(2h)
	9　内分泌内科、代謝学	内分泌内科と代謝学の基礎知識を理解する。	深見亜也子(2h)
	10　自己免疫疾患（膠原病） 腎疾患	膠原病、腎疾患の基礎知識を理解する。	鈴木道太(3h)
	11　内部障害総論	内部障害の定義と種類について理解する。理学療法士としての内部障害の捉え方・考え方を理解する。	川瀬翔太(7h)
授業形態	講義		
教科書	寺野　彰　総編集：シンプル内科学 改訂第2版. 南江堂		
参考書	大内慰義：標準理学療法学・作業療法学（専門基礎分野）老年学. 医学書院		
評価方法	筆記試験：神谷(13%)、小川(7%)、奥村(7%)、岡村(7%)、深見(7%)、鈴木(10%)、中川(7%)、梅田(10%)、川瀬(23%) レポート課題：内海(7%)、濱田(3%)		
授業時間外の学習	既習の関連科目の教科書やノートを用いた事前学習を行い、授業後は授業内容のまとめを行うこと。 内海：UNAIDSのレポートに目を通してからレポート課題に取り組むこと		
履修上の留意点	事前に基礎知識が必要となることを念頭において取り組むこと。		

授 業 要 項

令和6年度

科目名	一般臨床医学				担当者	杢野 泰司、山田　勝雄、竹内　裕喜 遠藤　登喜子、加藤　愛、伊藤　陽子 髙松　里奈、滝　久司、松原　健一			
学　年	2	学　期	後期	学　科	理学療法学科 作業療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 [一般目標]	臨床医学で必要な各分野の基礎知識について、病態・評価・治療を中心に学ぶ。		
授業計画	テーマ	授業内容 ［行動目標］	担当者
	1　外科総論	損傷、炎症、腫瘍などの基礎的病態と手術に関連した分野について理解する。	杢野 泰司 (4h)
	2　腹部外科	消化管、およびこれに関連した実質臓器の疾患と、その治療方法について理解する。	杢野 泰司 (4h)
	3　胸部外科	胸部外科疾患の基礎知識を理解する。	山田勝雄 (2h)
	4　脳神経外科	脳外科総論について学ぶ 脳血管疾患（各論）およびリハビリテーション、脳腫瘍、先天性奇形、水頭症、頭部外傷、脊椎・脊髄腫瘍（各論）、機能的脳神経外科について、その症候や治療について理解する。	竹内裕喜 (8h)
	5　乳腺疾患	乳癌の疫学・病理病態とマンモグラフィ（MG）や超音波（エコー、US）などの画像診断と治療の概論を理解する。	遠藤登喜子 (2h)
	6　皮膚科総論・褥瘡・熱傷	皮膚および代表的な皮膚科疾患の基礎知識を理解する。	加藤愛 (2h)
	7　耳鼻科疾患	耳鼻科疾患の基礎知識を理解する。	伊藤陽子 (2h)
	8　検査値（血液検査値）の診かた	リハビリテーションに必要な検査値の診かたについて学び、各疾患における検査値について、ケーススタディを通じて理解する。	髙松里奈 (2h)
	9　臨床薬理学	薬物の基礎知識を学び、リハビリテーションを実施する場合の薬物の影響について、ケーススタディを通じて理解する。	滝久司 (2h)
	10 画像の基礎と実際	リハビリテーションに必要となる画像の基礎知識を学び、ケーススタディを通じて各疾患へのつながりを理解する。	松原健一 (2h)
授業形態	講義		
教科書	炭山嘉伸編；外科学概論，改訂第4版　南江堂 標準脳神経外科学．医学書院 配布資料あり		
参考書			
評価方法	筆記試験（杢野27%、山田7%、竹内27%、遠藤7%、加藤7%、伊藤7%）、レポート(水野7%、滝7%、松原7%) 授業時間数に応じて配分		
授業時間外の学習	授業前後の予習、復習には1時間程度かけ、病態の理解を深めること		
履修上の留意点	杢野：あらかじめ配布した資料に、授業内容の要点を追加記入することが効果的。		

授 業 要 項（案）

令和6年度

科目名	運動器障害学				担当者	近藤　精司、竹中　裕人			
学　年	2	学　期	後期	学　科	理学療法学科 作業療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 ［一般目標］	整形外科学で学んでいない整形外科領域でみられる疾患・障害の基礎知識について、病態・評価・治療を中心に学ぶ。		
授業計画	テーマ	授業内容 ［行動目標］	担当者
	1 【各論】脊椎・脊髄	ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝに必要な脊椎・脊髄の機能解剖および疾患を理解する。	近藤　精司 （6h）
	2 【全身性の疾患】神経疾患・筋疾患	神経疾患・筋疾患の基礎知識について理解する。	
	3 スポーツ医学	スポーツ医学の基礎知識について理解する。	
	4 感染症	感染症性疾患の基礎知識について理解する。	竹中裕人 （24h）
	5 ロコモティブシンドロームと運動器不安定症	ロコモティブシンドロームおよび運動器不安定症の基礎知識について理解する。	
	6 骨壊死性疾患および骨端症	骨壊死性疾患及び骨端症の基礎知識について理解する。	
	7 四肢循環障害	四肢循環障害の基礎知識について理解する。	
	8 四肢切断および四肢欠損	骨壊死性疾患及び骨端症の基礎知識について理解する。	
	9 スポーツ整形外科	スポーツ整形外科の基礎知識について理解する。	
	10 障がい者スポーツ	障がい者スポーツの基礎知識について理解する。	
授業形態	講義		
教科書	高橋邦泰，芳賀信彦　編：整形外科学テキスト改訂第5版．南江堂		
参考書			
評価方法	筆記試験（近藤20%、竹中80%）		
授業時間外の学習	授業前には解剖学、運動学および前期に履修した整形外科学の復習をし、授業後には復習を1時間程行い、知識の定着をはかること		
履修上の留意点			

授 業 要 項

令和6年度

科目名	神経障害学				担当者	奥田　聡、饗場　郁子、横川　ゆき、 橋本　里奈、村尾　厚徳、小森　祥太 中川　誠			
学　年	2	学　期	後期	学　科	理学療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 [一般目標]	神経学で学んだ知識を踏まえ、神経学・神経障害学領域でみられる疾患・障害の基礎知識について、病態・評価・治療を中心に学び、その知識に基づいた神経障害に対する理学療法に触れる。		
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]	担当者
	1　脳血管障害（各論）	脳血管障害について、脳領域の機能や高次脳機能障害について理解する。	奥田聡 （6h）
	2　運動ニューロン疾患	運動ニューロン疾患について、その概念を学び、病態生理、分類・種類などについて理解する。	
	3　パーキンソン病・パーキンソニズム	パーキンソン病の病態、症候、経過および治療について理解する。 パーキンソニズムの分類とその症候や治療について理解する。	饗場郁子 （6h）
	4　脊髄小脳変性症	脊髄小脳変性症の分類を学び、その病理・症候、治療および経過を理解する。	
	5　中枢神経感染症	中枢神経感染症の代表的な疾患について学ぶ。	村尾　厚徳 （2h）
	6　先天性異常・代謝性疾患 中毒性疾患・脱髄性疾患	先天性異常・代謝性疾患・中毒性疾患・脱髄性疾患の分類および代表的疾患について学び、その症候について理解する。	小森　祥太 （3h）
	7　自律神経疾患・脊椎脊髄疾患	自律神経疾患の分類とその症候や経過について学び、脊椎・脊髄疾患の主要な疾患の基礎知識について理解する。	横川ゆき （2h）
	8　心理・知能検査	心理・知能検査について理解する。	
	9　電気生理学的検査（脳波・筋電図） 画像診断・病理的検査法	電気生理学的検査、画像診断、病理的検査について学び、その原理や特徴、診断学的意義について理解する。	橋本里奈 （3h）
	10　末梢神経疾患	末梢神経疾患の分類と症候について学び、主要な疾患について、その症状や治療・経過について理解する。	
	11　神経障害と理学療法への展開	代表的な神経疾患の病態を復習しながら理学療法への展開を学ぶ。	中川誠 （8h）
授業形態	講義		
教科書	メディカルスタッフのための神経内科学. 医歯薬出版 標準脳神経外科学. 医学書院		
参考書	標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野　神経内科学 リハビリテーションのための神経内科学ー第2版ー　医歯薬出版株式会社 ベッドサイドの脳神経の診かた　改訂18版　南山堂		
評価方法	筆記試験（奥田20%、饗場20%、横川7%、橋本10%、村尾7%、小森10%、中川27%）		
授業時間外の学習	授業前には予習をし、授業後には復習を1時間程度することで病態・治療の理解を深め、知識の定着を図ること		
履修上の留意点	講義日程は時間割表にて確認すること		

授 業 要 項

令和6年度

科目名	小児科学				担当者	野村　恒、濱口　典子			
学　年	2	学　期	後期	学　科	理学療法学科 作業療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 [一般目標]	小児のリハビリテーションを行う際に必要な知識として、小児の特性と小児に特徴的な疾患について理解する。		
授業計画	テーマ	授業内容 ［行動目標］	担当者
	1　成長・発達	小児の特徴は常に成長・発達していることである。特に4か月、10か月、1才6か月、3才での成長と発達について理解する。	野村恒 （15h）
	2　栄養	母乳栄養の利点と問題点、ビタミンB1、D、K、鉄、亜鉛、葉酸などの欠乏症について理解する。	
	3　小児保健	コメディカルの専門職として、母子保健、学校保健、予防接種などについて理解する。	
	4　小児診断学	情報を入手し、その問題リストについて問題点を考える力を養うことが大切である。	
	5　小児のプライマリケア	発熱などの主要症状、脱水症、事故、心肺蘇生、AED、心臓震とう、熱傷、誤飲、熱中症などについて理解する。	
	6　先天異常と染色体異常	非侵襲的出生前遺伝学的検査（NIPT）、21トリソミー、18トリソミー、13トリソミーなどについて理解する。	
	7　先天代謝異常	進歩の著しい先天代謝異常についての最新知識を理解する。	
	8　代謝疾患	アシドーシス、アルカローシス、テタニー、肥満、くる病などについて理解する。	
	9　感染症	社会生活に重大な影響を与える感染症も多く、また院内感染の発生もみられていることを理解する。	
	10 新生児・低出生体重児	定義と分類、適応、異常症候、対象疾患（各論）について理解する。	濱口典子 （15h）
	11 内分泌疾患	主要症候、検査、対象疾患（各論）について理解する。	
	12 免疫不全症	分類、検査・診断、臨床的特徴および治療と対象疾患（各論）について理解する。	
	13 リウマチ性疾患と類縁疾患	症状、検査、診断、対象疾患（各論）について理解する。	
	14 アレルギー性疾患	診断、検査、治療および対象疾患（各論）について理解する。	
	15 呼吸器疾患	症状と病態生理、検査・診断、治療および対象疾患（各論）について理解する。	
	16 循環器疾患	診断、治療原則、対象疾患（各論）について理解する。	
	17 血液・造血器疾患	病態と治療および対象疾患(各論)について理解する。	
	18 腫瘍性疾患	病態、診断、治療および対象疾患（各論）について理解する。	
	19 消化器疾患	症状と病態生理、検査・診断、治療および対象疾患（各論）について理解する。	
	20 腎・泌尿器疾患	主要症候と鑑別、検査、治療および対象疾患（各論）について理解する。	
	21 神経疾患	症候、病態、検査および対象疾患（各論）について理解する。	
	22 筋疾患	分類、症候、検査、治療および対象疾患（各論）について理解する。	
	23 骨疾患	診断および対象疾患（各論）について理解する。	
	24 精神疾患	分類、検査、診断および対象疾患（各論）について理解する。	
授業形態	講義、問題プリント		
教科書	香美祥二　編集：シンプル小児科学. 南江堂		
参考書	鈴木庄亮　監修：シンプル衛生公衆衛生学. 南江堂		
評価方法	筆記試験（野村50%、濱口50%）		
授業時間外の学習	野村：教科書の該当箇所に目を通すなど30分程度の事前学習を行い、講義後は配布資料や講義内容を元に1.5時間程度の復習を行うこと		
履修上の留意点	野村：他の授業で学んだ内容と関連して理解するように努めること。		

授 業 要 項

令和6年度

科目名	運動学実習				担当者	米田　愛、堤　恵志郎			
学　年	2	学　期	後期	学　科	理学療法学科	単位数	1	時間数	45

教育目標 [一般目標]	実習を通して運動学で学んだ知識を確認し理解を深める。生体で起こっている現象を観察・触診にて捉えること、および客観的に得られるデータから現象を捉えることを経験する。 発表等を通し、自分の意見を他者に伝え、他者の意見を理解する能力を深める。			
授業計画	テーマ		授業内容 [行動目標]	担当者
	1	オリエンテーション	授業の概要、事前課題、グループワークの進め方についての説明	米田愛 堤恵志郎
	2,5,8	実習計画の立案	事前課題と実習の手引きを参照し、各実習における計画をグループで立案する。	米田愛 堤恵志郎
	3 4	Ⅰ. 歩行 ⅰ)歩行分析 （歩行速度、歩幅、歩行率など） Ⅱ. 呼吸 ⅰ)呼吸①(呼吸の観察、呼吸筋触診) ⅱ)呼吸②(呼気ガス分析装置)	Ⅰ. 歩行 ⅰ)自然歩行と努力歩行において、それぞれの左右の歩幅、重複歩、歩行速度、歩行率を求める。自然歩行での歩容を観察し、立脚相と遊脚相の歩行分析を運動学の知識をもとに観察する。 Ⅱ. 呼吸 ⅰ)重力や呼吸筋力の影響を考慮し、呼吸様式の観察、胸郭拡張差などの違いについて、触診しながら観察する。 ⅱ)呼気ガス分析装置で得られる測定値について理解する。エネルギー代謝について理解し、安静時と運動時の換気、代謝の違いを考察する。	米田愛 堤恵志郎
	6 7 9 10	Ⅰ. 歩行 ⅱ)歩行分析 （三次元動作解析システム） Ⅲ. 関節運動 下肢の関節運動 Ⅳ. 筋力 （ハンドヘルドダイナモメータ）	Ⅰ. 歩行 ⅱ)三次元動作解析システムを使用して歩行分析を行い、各関節の歩行周期における角度変化を観察する。 Ⅲ. 関節運動 股関節運動時の骨盤の動きを確認し、股関節屈曲角度の構成要素を理解する。 Ⅳ. 筋力 ハンドヘルドダイナモメーターを用いて筋力を測定し、筋出力と筋トルクについて理解する。関節角度の違いによる、筋出力の違いについて考察する。	米田愛 堤恵志郎
	11	発表準備	今までに学んだ知識と実習を通して新たに得た知識を統合して、分析・考察を行う。目的、方法、結果、考察、まとめの流れを遵守し、発表資料をまとめる。	米田愛 堤恵志郎
	12	発表	割り当てられた課題について発表する。 実習で学んだ内容を発表し他者に理解させること、および他者の発表を聞きその意図することを理解する能力を深める。	米田愛 堤恵志郎
授業形態	実習、発表			
教科書	中村隆一、齋藤宏、長崎浩　著：基礎運動学　第6版補訂，医歯薬出版株式会社 Donald　A Neumann：筋骨格系のキネシオロジー，医歯薬出版株式会社			
参考書	中村隆一、齋藤宏、長崎浩　編：運動学実習　第3版 石川朗、種村留美、小島悟　編：15ﾚｸﾁｬｰｼﾘｰｽﾞ理学療法・作業療法ﾃｷｽﾄ　運動学 奈良勲、鎌倉矩子　監修：標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　運動学 内山　靖，小林　武，間瀬教史　著：計測法入門 他、運動学実習の手引き参照			
評価方法	事前課題（15%）、レポート（70%）、発表（15%）			
授業時間外の学習	事前課題やレポートのまとめ、発表準備について、授業内に時間を設けている。 前期の運動学で学んだ内容を復習し、時間内に作成できるよう実習に望むこと。			
履修上の留意点	各個人で事前課題の項目を学習しレポートにまとめる。 実習に適した服装で参加すること。（実習項目により異なる）			
担当者の実務経験	病院での理学療法士としての実務経験あり			

授 業 要 項

令和6年度

科目名	理学療法評価学Ⅱ				担当者	堤　恵志郎、蕨野　博明			
学　年	2	学　期	後期	学　科	理学療法学科	単位数	2	時間数	45

教育目標 [一般目標]	主な疾患・病態に対して、理学療法を行う上で必要となる基本的検査項目及び意義について学ぶ。 一部の疾患・病態に対して、理学療法を行う上で必要となる検査の意義・方法を学び、実施できるようにする。 姿勢・動作についての評価方法や、評価機器を用いた定量的評価の方法を学ぶ。 評価の一連の流れ、症例レポートの書き方、統合と解釈の考え方を学ぶ。

授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]	担当者 (時間数)
	1 理学療法における評価の考え方 意識レベル、疼痛検査	評価の考え方について理解する。 意識レベル・疼痛検査の評価について、目的・方法を理解する。	蕨野博明 (2h)
	2 脳血管疾患の評価の考え方 運動麻痺の評価の実際	脳卒中の評価について目的・方法を理解する。 検査を実際に行い、実施できる。	蕨野博明 (8h)
	3 姿勢反射(立ち直り反応・平衡反応) バランス検査	姿勢反射(立ち直り反応・平衡反応)、バランス検査について目的、方法を理解する。検査を実際に行い、実施できる。	蕨野博明 (3h)
	4 小児(脳性まひ)の評価の考え方	脳性まひの評価の考え方を理解し、評価項目を列挙できる。	蕨野博明 (2h)
	5 神経難病の評価の考え方	神経難病の評価の考え方を理解し、評価項目を列挙できる。	蕨野博明 (2h)
	6 評価機器を用いた定量的評価の診かた	評価動画の視聴や実技を通じて、機器(重心動揺計、ウォークWay、超音波)を用いた評価方法とその解釈を理解する。	蕨野博明 (2h)
	7 動作分析①(動作分析の進め方、姿勢分析、起居動作分析)	動作分析の目的、方法について理解する。 姿勢分析、起居動作分析を実際に行い、その方法を理解する。	堤恵志郎 (6h)
	8 動作分析②(歩行分析の目的、方法、正常歩行の理解)	歩行分析の目的、方法について理解する。 正常歩行の特徴について理解する。	堤恵志郎 (4h)
	9 動作分析③(症例動画を使用した歩行分析)	症例動画を見て、正常歩行との違いを理解する。 動画を用いての歩行分析を実際に行い、その方法を理解する。	堤恵志郎 (4h)
	10 症例レポートの書き方 統合と解釈の考え方	症例レポートの書き方、統合と解釈の考え方を理解する。	蕨野博明 (3h)
	11 ケーススタディ	ペーパーペイシェントを利用し、症例レポートの書き方、統合と解釈の考え方の理解を深める。	蕨野博明 (7h)
	12 評価の一連の流れ	オリエンテーションから結果の報告まで、評価の一連の流れを理解する。	蕨野博明 (2h)

授業形態	講義　実技演習
教科書	田崎義昭、斎藤佳雄:改訂第18版 ベッドサイドの神経の診かた. 南山堂 千田富義、髙見彰淑:リハ実践テクニック　脳卒中. メジカルビュー社 百島祐貴:PT・OTのための画像診断マニュアル. 医学教育出版社
参考書	原寛美、吉尾雅春　編集:脳卒中理学療法の理論と技術. メジカルビュー社 細田多穂　監修:シンプル理学療法学シリーズ　理学療法評価学テキスト. 南江堂 石井慎一郎 編著:動作分析 臨床活用講座 バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践. メジカルビュー社 理学療法評価学Ⅰで使用した教材
評価方法	レポート(堤50%、蕨野30%)、筆記試験(堤50%、蕨野40%)、実技試験(蕨野30%)　授業時間数に応じて配分
授業時間外の学習	理学療法評価学Ⅰ、各疾患学で学んだことの復習
履修上の留意点	講義の順番、担当講師については時間割にて確認すること
担当者の実務経験	病院勤務による実務経験あり

授 業 要 項

令和6年度

科目名	理学療法評価学演習				担当者	米田　愛、堤　恵志郎 蕨野　博明、川瀬　翔太			
学　年	2	学　期	後期	学　科	理学療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 [一般目標]	学院の講義・実習等で習得した知識と技術をもとに、臨床の患者を通じて評価の実際を学び、理解を深めることができる。 患者と接するにあたり、その人の立場を理解した上で適切に対応できる。		
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]	担当者 (時間数)
	1　オリエンテーション 症例カード提示	対象疾患の概要から、必要な評価を選定することができる。	川瀬 (2h)
	2　<u>実技実習①～④</u> ・医療人,社会人としての責任・態度などの基本を身につける ・リスク管理 ・評価の実施 ・記録,報告 ・観察,動作分析	医療人として、障害を持った患者様の立場を理解し、接することができる。社会人として、節度を持って責任ある行動をとることができる。 バイタルサインの確認を正しく行うことができる。 評価の順序性や実施中の注意点など、指導者の指導の下で理解し、実施できる。 患者に対する個々の評価に関して、評価の目的・意味を考え、不十分な点に気づき、工夫・修正して、指導者の指導の下で実施できる。 評価・観察結果に基づき、理学療法士として適切な表現で記録・報告できる。 検査・測定、観察や動作分析を通して症例と健常者との違いに気づくことができる。	米田,堤 蕨野,川瀬 (16h)
	3　評価結果の考察	評価結果に関して、その原因を考察することができる。 評価結果同士の統合に関しては、指導者の指導の下で理解できる。	米田,堤 蕨野,川瀬 (10h)
	4　総括	対象疾患に対して考察した内容を表出できる。	川瀬 (2h)
授業形態	見学、実技実習		
教科書	特に規定しない		
参考書	特に規定しない		
評価方法	レポート（グループ20%、個人80%）		
授業時間外の学習	オリエンテーションも含め、限られた時間の中で評価・観察が行えるように、2時間程度は事前の準備を行うこと。		
履修上の留意点	実技実習を行う際には診察衣で実施し、行動、身だしなみに注意すること。 爪の手入れも怠らない。アクセサリー厳禁。 患者様の体調に配慮し、リスク管理を行い、異常があれば速やかに報告すること。		
担当者の実務経験	病院勤務による実務経験あり		

授 業 要 項

令和6年度

科目名	運動器障害理学療法学Ⅰ				担当者	米田　愛、蕨野　博明			
学　年	2	学　期	後期	学　科	理学療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 [一般目標]	運動器障害の理学療法を実施する上で必要な解剖学・生理学・運動学・病理学を復習しながら、疾患の病態について理解を深める。 代表疾患の理学療法評価ならびに治療についての知識、技術を学ぶ。		
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]	担当者 (時間数)
	1 オリエンテーション 整形外科疾患の基本的な理学療法評価	整形外科疾患の評価の考え方を理解し、評価項目を列挙できる。	蕨野博明 (2h)
	2 炎症および炎症の評価 組織修復・治癒過程	運動器障害に頻発する炎症症状を説明できる。 組織損傷後の修復・治癒過程について、基礎的事項の知識を振り返り、その特徴を説明できる。	米田　愛 (4h)
	3 骨折の概要と評価・治療	骨折の分類、評価、治療法、合併症について説明できる。	蕨野博明 (1h)
	4 骨折の理学療法(評価・治療・リスク管理)	骨折に対する理学療法評価、治療、リスク管理について説明できる。	蕨野博明 (1h)
	5 代表的な疾患と理学療法(肩)	代表的な肩関節疾患における特徴の理解を深め、理学療法および日常生活上の注意点を挙げられる。一部実技を通して理学療法の実際に触れ、評価・技術について説明・実施できる。	蕨野博明 (4h)
	6 代表的な疾患と理学療法(肘)	代表的な肘関節疾患における特徴の理解を深め、理学療法および日常生活上の注意点を挙げられる。一部実技を通して理学療法の実際に触れ、評価・技術について説明・実施できる。	蕨野博明 (2h)
	7 代表的な疾患と理学療法(手)	代表的な手関節疾患における特徴の理解を深め、理学療法および日常生活上の注意点を挙げられる。一部実技を通して理学療法の実際に触れ、評価・技術について説明・実施できる。	蕨野博明 (2h)
	8 代表的な疾患と理学療法(股)	代表的な股関節疾患における特徴の理解を深め、理学療法および日常生活上の注意点を挙げられる。一部実技を通して理学療法の実際に触れ、評価・技術について説明・実施できる。	蕨野博明 (4h)
	9 代表的な疾患と理学療法(膝)	代表的な膝関節疾患における特徴の理解を深め、理学療法および日常生活上の注意点を挙げられる。一部実技を通して理学療法の実際に触れ、評価・技術について説明・実施できる。	蕨野博明 (4h)
	10 代表的な疾患と理学療法(足)	代表的な足関節疾患における特徴の理解を深め、理学療法および日常生活上の注意点を挙げられる。一部実技を通して理学療法の実際に触れ、評価・技術について説明・実施できる。	蕨野博明 (4h)
	11 代表的な疾患と理学療法 (脊椎・リウマチ)	代表的な脊椎疾患・炎症疾患における特徴の理解を深め、理学療法および日常生活上の注意点を挙げられる。一部実技を通して理学療法の実際に触れ、評価・技術について説明・実施できる。	蕨野博明 (2h)
授業形態	講義、実技実習		
教科書	なし		
参考書	配布資料末尾に記載、適宜紹介		
評価方法	筆記試験(米田、蕨野)　授業時間数に応じて配分		
授業時間外の学習	毎回授業前後には、運動学・解剖学の確認等も含め、30分～1時間程度の予習・復習をすること		
履修上の留意点	実技実習を行う際には動きやすい服装で臨む		
担当者の実務経験	病院勤務による実務経験あり		

授 業 要 項

令和6年度

科目名	神経障害理学療法学Ⅰ				担当者	米田　愛、堤　恵志郎			
学　年	2	学　期	後期	学　科	理学療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 [一般目標]	神経疾患の理学療法を実施する上で必要な解剖学・生理学・運動学・病理学を復習しながら、疾患の病態について理解を深める。脳血管障害の各損傷部位における症状・特徴から理学療法の評価を考え、基本的な治療内容を理解する。		
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]	担当者
	1　大脳の機能局在および連合野	大脳の構造と機能について理解し、その機能局在について説明できる。 大脳の障害によって起こる症状について、機能局在と関連して説明できる。	米田　愛 (2h)
	2　脳血管、脳循環	脳循環について、血管の名称・走行・灌流領域など理解し、説明できる。 障害によって起こる症状について説明できる。	米田　愛 (4h)
	3　中枢神経系の解剖と生理学的役割および臨床症状との関連症状に対応する理学療法評価	解剖学、生理学の観点から中枢神経系の機能および役割について説明でき、障害すると生じる機能障害・臨床症状と関連づけられる。また、症状に対する理学療法評価を確認できる。	米田　愛 堤恵志郎 (6h)
	4　脳機能の各損傷部位における障害について	脳機能の各損傷部位における障害について理解し、説明することができる。	堤恵志郎 (6h)
	5　脳血管障害の医学管理・機能回復について	脳血管障害の医学管理・機能回復について理解することができる。	堤恵志郎 (4h)
	6　脳血管障害における検査と評価について	脳血管障害で生じる症状について、一連の評価が説明でき、実施することができる。	堤恵志郎 (4h)
	7　脳血管障害の理学療法	脳血管障害に対する基本的な理学療法について理解することができる。	堤恵志郎 (4h)
授業形態	講義　発表		
教科書	脳機能とリハビリテーション研究会：改訂第2版 脳機能の基礎知識と神経症候ケーススタディ 症例から学ぶリハビリテーション臨床思考，メジカルビュー社		
参考書	脳卒中理学療法の理論と技術 イラストによる中枢神経系の理解 リハビリテーションのための神経内科学 標準　脳神経外科学 神経システムがわかれば脳卒中リハ戦略が決まる その他、生理学・基礎運動学の教材など		
評価方法	筆記試験(90%)　発表(10%)		
授業時間外の学習	1時間程度の事前事後学習を要す		
履修上の留意点	今までに学習した知識を各自整理しながら、発展できるように授業に臨むこと。また、課題発表においては、発表者は理解しやすい表現で工夫して発表するように臨む。		
担当者の実務経験	病院での理学療法士としての実務経験あり		

授 業 要 項

令和6年度

科目名	内部障害理学療法学Ⅰ				担当者	中村　敦子、川瀬　翔太、川瀬　美幸			
学　年	2	学　期	後期	学　科	理学療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 [一般目標]	内部障害の理学療法を実施する上で必要な解剖学・生理学・運動学・病理学を復習しながら、疾患の病態について理解を深める。 代表疾患の理学療法評価ならびに治療についての知識、技術を学ぶ。		
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]	担当者
	1 呼吸理学療法　総論	呼吸の概念、呼吸理学療法の必要性について理解し、説明できる。	中村敦子 (1h)
	2 呼吸器系の解剖学・運動学	呼吸器系の構造や呼吸運動について理解し、説明できる。	中村敦子 (2h)
	3 呼吸器系の生理学、臨床検査データ	換気とガス交換、動脈血液ガス、スパイロメトリ、これらから臨床病態を推測することができる。	中村敦子 (3h)
	4 呼吸不全の病態と呼吸器疾患	呼吸不全の定義、酸素化不全と換気不全の病態、呼吸不全患者に対する呼吸理学療法について理解し、説明できる。	中村敦子 (2h)
	5 呼吸理学療法評価：医療面接、フィジカルアセスメント	医療面接、フィジカルアセスメント（視診、触診、聴診、打診）から問題点を抽出する過程を理解する。	中村敦子 (3h)
	6 呼吸理学療法評価：その他の評価	運動耐容能、筋力、ADL評価、QOL評価、栄養状態、X線の見方など、呼吸理学療法に必要な評価について理解する。	中村敦子 (2h)
	7 症例検討(呼吸器疾患)	症例を利用して評価と解釈ができる。	中村敦子 (1h)
	8 心臓リハビリテーションの概要	心臓リハビリテーションの意義・目的を理解し、説明できる。	川瀬翔太 (1h)
	9 虚血性心疾患の評価と理学療法	虚血性心疾患の病態について理解し、説明できる。	川瀬翔太 (4h)
	10 循環器疾患におけるバイタルサインの診方	全身状態、バイタルサインの診方を理解し、説明・実施できる。	川瀬翔太 (2h)
	11 循環器疾患における身体所見の診方	身体所見の確認および理学療法評価の意義・目的を理解し、説明・実施できる。	川瀬翔太 (2h)
	12 心電図の診方	正常な心電図および簡単な不整脈を理解し、説明できる。	川瀬翔太 (3h)
	13 心臓リハビリテーションの実際	心臓リハビリテーションの意義・目的を理解し、説明できる。	川瀬翔太 (2h)
	14 一時的吸引とは	呼吸器系の解剖生理を想起し、一時的吸引(気管内吸引、口腔・鼻腔吸引)が必要となる対象が理解できる	川瀬美幸 (2h)
	15 吸引の目的、適応、方法	一時的吸引の適応と方法について理解できる 一時的吸引が必要な対象の思いを考えることができる	
	16 一時的吸引（気管内、口腔内・鼻腔内）の実際（演習）	モデル人形を使用して、一時的吸引（気管内吸引、口腔・鼻腔吸引）が実施できる	
授業形態	【呼吸】講義、実技　【循環】講義　【吸引法】講義、吸引演習、DVD視聴		
教科書	【呼吸】石川朗総編集；理学療法テキスト内部障害理学療法学　呼吸　第3版，中山書店 【循環】医療情報科学研究所編：病気がみえるVol.2，循環器，メディックメディア 石川朗総編集；理学療法テキスト内部障害理学療法学　循環・代謝 第2版，中山書店		
参考書	【呼吸】呼吸音聴診ガイドブック，医学書院 【循環】 配布資料		
評価方法	【呼吸】筆記試験46.5%　【循環】筆記試験46.5%　【吸引法】 吸引演習7%		
授業時間外の学習	【呼吸】授業前には呼吸器分野の疾患や解剖生理の復習、業後には復習を、1時間程度はすること。 【循環】授業前には循環器分野の疾患や解剖生理の復習、業後には復習を、1時間程度はすること。		
履修上の留意点	【呼吸】実技をおこないますので、適した服装を用意してください。 【吸引法】実技演習は診察医にて実施すること。		
担当者の実務経験	病院勤務による実務経験あり		

授 業 要 項

令和6年度

科目名	老年期障害理学療法学				担当者	奥村　智子、中川　誠、中村　敦子 川瀬　翔太、蕨野　博明			
学　年	2	学　期	後期	学　科	理学療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 [一般目標]	高齢者をイメージでき、加齢に伴う心身機能の変化を理解できる。それを踏まえ、理学療法を実施する上での留意点を把握し、高齢患者の理学療法を深めることができる。今後の高齢者に対する理学療法士の役割を学ぶ。それらを通して対象者の自立生活を支援するために必要な課題解決能力を学ぶ。		
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]	担当者 (時間数)
	1　総論（特徴、定義、老年症候群含）	高齢者をイメージでき、加齢に伴う心身機能の変化を理解できる。	中川誠 (2h)
	2　加齢に伴う心身機能変化（社会・精神的）		中川誠 (2h)
	3　加齢に伴う心身機能変化（身体的①）		中川誠 (2h)
	4　加齢に伴う心身機能変化（身体的②）		中川誠 (2h)
	5　高齢者理学療法の基本的考え方 ①	高齢者理学療法の考え方、留意点を理解できる。	中川誠 (2h)
	6　高齢者理学療法の基本的考え方 ②		中川誠 (2h)
	7　老年症候群に対する理学療法（フレイル・サルコペニア）	高齢患者の理学療法を深めることができる。今後の高齢者に対する理学療法士の役割を学ぶ。それらを通して対象者の自立生活を支援するために必要な課題解決能力を学ぶ。	川瀬翔太 (2h)
	8　高齢者に多い循環器疾患（心不全）の評価と理学療法		川瀬翔太 (4h)
	9　高齢者に多い運動器疾患（変形性関節症）の評価と理学療法		蕨野博明 (4h)
	11　高齢者に多い呼吸器疾患（肺炎等）の評価と理学療法		中村敦子 (4h)
	15　老年期に多い問題への対応（嚥下障害・嚥下リハ）	嚥下障害・嚥下リハビリテーションの基礎を学び、実技実演を通して、老年期に多い問題への対応について学ぶ	奥村智子 (4h)
授業形態	講義、実技・実演		
教科書	なし、一部配布資料あり		
参考書	大内慰義：標準理学療法学・作業療法学（専門基礎分野）老年学. 医学書院 島田裕之：高齢者理学療法学.医歯薬出版 宮越浩一：高齢者リハビリテーション実践マニュアル.メディカルビュー		
評価方法	筆記試験（中川、中村、川瀬、蕨野）、レポート(奥村)　　授業時間数に応じて配分		
授業時間外の学習	老年学で学んだ内容や各疾患に対する基本的な理学療法を事前に復習して望み、授業後には授業内容の復習をすること。		
履修上の留意点	今までに学習した知識を各自整理しながら、発展できるように授業に臨むこと。		
担当者の実務経験	病院勤務による実務経験あり		

授 業 要 項

令和6年度

科目名	義肢装具学				担当者	中村　敦子、川瀬　翔太、平松　敦子			
学　年	2	学　期	後期	学　科	理学療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 [一般目標]	義肢、装具の種類と基本構造および使用目的を理解するとともに、それらの導入・指導についても学び概略を説明できる。 装具学：20時間（うち上肢道具3時間）、義肢学：10時間		
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]	担当者
	1　装具学　総論	装具とは，目的，装具の分類，装具処方の流れ，装具療法の際に留意すべきこと，生体力学について,適合判定について理解し説明できる。	中村敦子 （3h）
	2　下肢装具学　総論	下肢装具の分類，構造について理解し説明できる。	中村敦子 （1h）
	3　下肢装具の構成部品の名称と継手の種類	下肢装具の部品，継手の種類と特徴を理解し説明できる。	中村敦子 （2h）
	4　短下肢装具、長下肢装具	短下肢装具・長下肢装具の種類や特徴、チェックポイント（適合・位置など）、採型時の注意について理解できる。	中村敦子 （5h）
	5　股装具、膝装具、体幹装具、靴型装具、疾患別装具	種類，対象、目的，機能，チェックポイントについて理解し説明できる。	中村敦子 （6h）
	6　上肢装具	種類、目的、機能、適応について理解し説明できる。	平松敦子 （3h）
	7　義足の種類と構造	義足の種類・構造を学び、切断後の患者に対し適切な義足の選択が出来る。	川瀬翔太 （2h）
	8　切断の原因と医学的処置について	切断に至る外傷や疾病を学び予防や医学的処置を説明することが出来る。	川瀬翔太 （2h）
	9　義足導入の実際と歩行について	代表的な義足の異常歩行を学び、その原因・対処方法を挙げることが出来る。	川瀬翔太 （3h）
	10　義足運用に関わる理学療法士の役割	義足導入の実際を学び、禁忌も含めその指導方法やメンテナンスについても概略を説明出来る。 チーム医療にて義足導入が行われる昨今の流れの中で理学療法士がそれにどう関わるのかを説明できる。	川瀬翔太 （3h）
授業形態	講義，実習		
教科書	日本整形外科学会監修；義肢装具のチェックポイント　第9版，医学書院		
参考書	飛松好子編；装具学（第4版），医歯薬出版株式会社 細田多穂監修：シンプル理学療法学シリーズ　義肢装具学テキスト，南江堂		
評価方法	筆記試験　　授業時間数に応じて配分		
授業時間外の学習	0.5～1h程度の事前事後学習を要す。義足・装具装着下の異常歩行の理解のために簡単な力学的知識が必要となるので物理学の力学分野を復習しておくこと。		
履修上の留意点	名称、構造、チェックポイントを覚え、力学的な面からイメージできるようにしましょう。		
担当者の実務経験	病院勤務による理学療法士、作業療法士としての実務経験あり		

授 業 要 項

令和6年度

科目名	運動学実習				担当者	水野 準也　平松 敦子			
学 年	2	学 期	後期	学 科	作業療法学科	単位数	1	時間数	45

教育目標 [一般目標]	実習を通して運動学で学んだ知識を確認し理解を深める。生体の発する情報をありのままに捉えること、客観的データとの関係から捉えることを経験する。 また、発表等を通し自分の意見を他者に伝え、他者の意見を理解する能力を獲得する。		
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]	担当者 (時間数)
	1 オリエンテーション	授業の概要、必要な資料についての説明	水野 (4h)
	2 前半の実習計画の立案	前半の実習方法確認と計画立案(Ⅰ～Ⅲ)	
	3 Ⅰ. 肩関節運動 Ⅱ. 手関節運動 Ⅲ. 手指関節運動	Ⅰ. 肩関節における内外旋の筋力差について、回旋角度によって異なる筋作用の点から考察する Ⅱ. 手関節の角度の相違により、手指の伸筋屈筋作用の変化を考察する。 Ⅲ. 手内在筋・手外在筋のMP関節の肢位による手指の内外転筋作用の変化を考察する	水野 (12h)
	4 前半の実習のまとめ	各学生が作成した課題シートをもとに、ポイントの教授やフィードバックといったまとめを行う	水野 (3h)
	5 後半の実習計画の立案	後半の実習方法確認と計画立案(Ⅳ～Ⅵ)	平松 (4h)
	6 Ⅳ. 下肢の関節運動 Ⅴ. 動作分析 Ⅵ. 呼吸・循環	Ⅳ. 立ち上がり動作において、骨盤角度の相違による筋作用について考察する。 Ⅴ. 骨盤角度の相違による歩行パターンを考察する Ⅵ. 入浴動作における姿勢や方法による影響を呼吸・循環機能の点から考察する	平松 (12h)
	7 後半の実習のまとめ	各学生が作成した課題シートをもとに、ポイントの教授やフィードバックといったまとめを行う	平松 (3h)
	8 発表準備 発表準備に関する教員フィードバック	割り当てられた課題について発表準備をする。 発表に対して教員からフィードバックを受け、修正することができる。	水野(2h) 平松(2h)
	9 発表	割り当てられた課題について発表することができる。	水野 平松 (3h)
授業形態	実習、発表		
教科書	中村隆一、齋藤宏、長崎浩　著:基礎運動学　第6版 Donald　A Neumann:筋骨格系のキネシオロジー, 医歯薬出版株式会社		
参考書	中村隆一、齋藤宏、長崎浩　編:運動学実習　第3版 石川朗、種村留美、小島悟　編:15ﾚｸﾁｬｰｼﾘｰｽﾞ理学療法・作業療法ﾃｷｽﾄ　運動学 奈良勲、鎌倉矩子　監修:標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　運動学 内山　靖, 小林　武, 間瀬教史　著:計測法入門 他、臨床運動学の手引き参照		
評価方法	実習①～⑥の課題シート(90%)、発表内容(10%)		
授業時間外の学習	一回の実習に際し、必要に応じて個人・グループでの事前事後学習を行うこと。		
履修上の留意点	既習の科目(例えば、解剖学、運動学など)で学んだことやその資料を活用し、運動学の理解を深めること。また、実習に適した服装で参加すること。(実習項目により異なる)		
担当者の実務経験	病院での作業療法に従事		

授 業 要 項

令和6年度

科目名	内部障害学				担当者	神谷　悦功、小川　賢二、奥村　秀則、内海　眞 岡村　菊夫、深見　亜也子、鈴木　道太、濱田　真奈美 中川　誠、棚瀬　智美、梅田　雄嗣			
学　年	2	学　期	後期	学　科	作業療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 [一般目標]	内科学で学んでいない内科学領域でみられる疾患・障害の基礎知識について、病態・評価・治療を中心に学び、その知識に基づいた内部障害に対する理学療法に触れる。		
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]	担当者
	1　老年医学(総論)	老年医学についての基礎知識を理解する。	中川誠(2h)
	2　老年医学(認知症)	認知症の定義と種類、中核症状とBPSD、特徴を理解する。 認知症に関連する評価を理解する。	梅田雄嗣(3h)
	3　老年医学(ターミナルケア)	ターミナルケアについての基礎知識を理解する。	濱田真奈美(1h)
	4　血液内科	貧血、造血器腫瘍、凝固障害などの基礎知識を理解する。	神谷悦功(4h)
	5　免疫アレルギー	アレルギー性疾患の基礎知識を理解する。	小川賢二(2h)
	6　咀嚼・嚥下機能、オーラル・フレイル	口腔・頸部の解剖および、咀嚼・嚥下機能、フレイル、サルコペニアの病態について理解する。	奥村秀則(2h)
	7　HIV感染症/AIDSについて	本疾患の病態、治療、疫学について、その概要を理解するとともに、社旗的偏見の克服について説明できる。	内海眞(2h)
	8　泌尿器	泌尿器科疾患の基礎知識を理解する。	岡村菊夫(2h)
	9　内分泌内科、代謝学	内分泌内科と代謝学の基礎知識を理解する。	深見亜也子(2h)
	10　自己免疫疾患(膠原病) 腎疾患	膠原病、腎疾患の基礎知識を理解する。	鈴木道太(3h)
	11　心臓機能障害	各機能障害の病態、原因疾患、治療を理解し、説明できる。	棚瀬智美(7h)
	12　呼吸機能障害		
	13　腎機能障害・糖代謝異常		
授業形態	講義		
教科書	寺野　彰　総編集:シンプル内科学 改訂第2版　南江堂 標準作業療法学　専門分野　高齢期作業療法治療学 第4版　医学書院 病気がみえるvol.2　循環器、vol.4 呼吸器(メディックメディア)		
参考書	標準理学療法学・作業療法学　内科学4版(医学書院) 大内慰義:標準理学療法学・作業療法学(専門基礎分野)老年学. 医学書院		
評価方法	筆記試験:神谷(13%)、小川(7%)、奥村(7%)、岡村(7%)、深見(7%)、鈴木(10%)、中川(7%)、梅田(10%)、棚瀬(23%) レポート課題:内海(7%)、濱田(3%)		
授業時間外の学習	既習の関連科目の教科書やノートを用いた事前学習を行い、授業後は授業内容のまとめを行うこと。 内海:UNAIDSのレポートに目を通してからレポート課題に取り組むこと		
履修上の留意点	事前に基礎知識が必要となることを念頭において取り組むこと。 棚瀬:内部障害作業療法治療学の授業と関連した内容で構成		

授 業 要 項

令和6年度

科目名	神経障害学				担当者	奥田　聡、饗場　郁子、横川　ゆき 橋本　里奈、村尾　厚徳、小森　祥太 濱川　麻美			
学　年	2	学　期	後期	学　科	作業療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 [一般目標]	神経学で学んだ知識を踏まえ、神経学・神経障害学領域でみられる疾患・障害の基礎知識について、病態・評価・治療を中心に学び、その知識に基づいた神経障害に対する理学療法に触れる。		
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]	担当者
	1　脳血管障害（各論）	脳血管障害について、脳領域の機能や高次脳機能障害について理解する。	奥田聡 （6h）
	2　運動ニューロン疾患	運動ニューロン疾患について、その概念を学び、病態生理、分類・種類などについて理解する。	
	3　パーキンソン病・パーキンソニズム	パーキンソン病の病態、症候、経過および治療について理解する。 パーキンソニズムの分類とその症候や治療について理解する。	饗場郁子 （6h）
	4　脊髄小脳変性症	脊髄小脳変性症の分類を学び、その病理・症候、治療および経過を理解する。	
	5　中枢神経感染症	中枢神経感染症の代表的な疾患について学ぶ。	村尾　厚徳 （2h）
	6　先天性異常・代謝性疾患 中毒性疾患・脱髄性疾患	先天性異常・代謝性疾患・中毒性疾患・脱髄性疾患の分類および代表的疾患について学び、その症候について理解する。	小森　祥太 （3h）
	7　自律神経疾患・脊椎脊髄疾患	自律神経疾患の分類とその症候や経過について学び、脊椎・脊髄疾患の主要な疾患の基礎知識について理解する。	横川ゆき （2h）
	8　心理・知能検査	心理・知能検査について理解する。	
	9　電気生理学的検査（脳波・筋電図） 画像診断・病理的検査法	電気生理学的検査、画像診断、病理的検査について学び、その原理や特徴、診断学的意義について理解する。	橋本里奈 （3h）
	10　末梢神経疾患	末梢神経疾患の分類と症候について学び、主要な疾患について、その症状や治療・経過について理解する。	
	11　脳神経内科学について	脳神経内科学について、その概念を理解し、基礎知識の整理を行い、説明することができる。	濱川 麻美 （8h）
	12　中枢神経系の解剖と生理	中枢神経系の解剖と生理について説明できる	
	13　意識障害、頭痛・めまい・失神について	意識障害、頭痛・めまい・失神について症候を理解し説明できる。	
	14　運動麻痺、錐体路徴候、筋萎縮について	運動麻痺、錐体路徴候、筋萎縮について症候を理解し説明できる。	
	15　錐体外路徴候、不随意運動について	錐体外路徴候、不随意運動について症候を理解し説明できる。	
	16　運動失調について	運動失調について症候を理解し説明できる。	
	17　感覚障害について	感覚障害について症候を理解し説明できる。	
	18　構音障害、嚥下障害について	構音障害、嚥下障害について症候を理解し説明できる。	
	19　脳神経外科領域疾患の代表的症候について	脳神経外科領域疾患の代表的症候についてその概念を理解し説明できる。	
	20　各神経症候の作業療法との関連事項	各神経症候の作業療法との関連事項について理解し説明できる。	
授業形態	講義		
教科書	メディカルスタッフのための神経内科学. 医歯薬出版 標準脳神経外科学. 医学書院		
参考書	標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野　神経内科学 リハビリテーションのための神経内科学ー第2版ー　医歯薬出版株式会社 ベッドサイドの脳神経の診かた　改訂18版　南山堂		
評価方法	筆記試験（奥田20%、饗場20%、横川7%、橋本10%、村尾7%、小森10%、濱川27%）		
授業時間外の学習	授業前には予習、授業後に復習を1時間程度することで病態・治療の理解を深め、知識の定着を図る。 濱川：既習の関連科目の教科書やノートを用いた事前学習を行い、授業後は授業内容のまとめを行うこと。		
履修上の留意点	講義日程は時間割表にて確認すること。 濱川：事前に基礎知識が必要となることを念頭において取り組むこと。		

授 業 要 項

令和6年度

科目名	精神障害作業療法評価学				担当者	水野 準也			
学 年	2	学 期	後期	学 科	作業療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 [一般目標]	精神障害における対象者の状態が把握できるようになるために、基本的な評価の目的や方法について理解できる。 精神科作業療法の一連の評価の流れ(臨床思考過程)を理解できる。		
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]	担当者 (時間数)
	1 精神科OTにおける評価総論	精神科OTの評価の目的・意義、基本的な流れについて説明することができる。 精神障害分野における回復過程と評価のポイントについて説明することができる。	水野 (2h)
	2 評価計画立案	評価計画立案の際に必要な評価項目を列挙し、評価手段について想定することができる。	水野 (2h)
	3 情報収集	情報収集(他部門、カルテなど)の方法とその内容、留意点について理解し、説明することができる。	水野 (4h)
	4 観察	作業療法評価学ⅠおよびⅡで学んだことを踏まえ、観察の構造・形態について復習することができる。 精神科OTにおける観察について、日常生活や集団内での観察のポイントについて理解し、説明することができる。	水野 (4h)
	5 面接	作業療法評価学ⅠおよびⅡで学んだことを踏まえ、面接の構造・形態、面接の種類・留意点について復習することができる。 精神科OTにおける面接の現状や留意点について理解し、説明することができる。 作業面接(構成的・投影的)の方法と特徴を理解し、説明することができる。	水野 (4h)
	6 検査・調査	精神科OTに関連する検査・調査を理解し、説明することができる。一部検査・調査を体験することができる。	水野 (8h)
	7 評価結果のまとめ ICF	ICFについて、各項目の内容、作成方法について理解することができる。また、モデルケースでICF作成することができる。	水野 (4h)
	8 統合と解釈、焦点化 目標設定	統合と解釈、焦点化の位置づけと意義、目的について理解することができる。ICF—統合と解釈—焦点化の繋がりを理解することができる。 目標設定について目標設定時の原則、期間などについて理解することができる。	水野
授業形態	講義、演習		
教科書	精神障害と作業療法 治る・治すから生きるへ 新版(三輪書店) 作業療法学 ゴールドマスターテキスト 精神障害作業療法学(第3版)(メジカルビュー社)		
参考書	必要な文献等は講義時に配布する。		
評価方法	期末試験 (筆記試験);水野 100点		
授業時間外の学習	授業前には基礎となる作業療法評価学Ⅰ・Ⅱの復習をしておくこと。また、授業後は配布資料や授業内容を元に1時間程度の復習を行うこと。		
履修上の留意点	この授業を基礎として、作業療法評価学演習や精神障害作業療法治療学演習Ⅰが展開されることを念頭に置いて学習すること。		
担当者の実務経験	病院で精神障害領域の作業療法に従事		

授 業 要 項

令和6年度

科目名	発達障害作業療法評価学				担当者	加賀谷　繁　　渡邉　朱美 浅岡　俊彰			
学　年	2	学　期	後期	学　科	作業療法学科	単位数	1	時間数	15

教育目標 [一般目標]	正常運動発達におけるその過程を知り、人の姿勢や運動の発達過程について学ぶ。 発達障害領域における人の姿勢や運動に関する観察や評価の視点と一般的な発達検査内容を学び、評価方法を理解する。 発達障害のお子さんの障害像、評価方法を理解する。		
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]	担当者 (時間数)
	1　正常運動発達の理解と捉え方について	正常運動発達の過程を通して、姿勢や運動の発達過程について学びと理解を深める	加賀谷 (4h)
	2　発達障害における評価について	作業療法評価について(目的、手順)を理解する。 評価(発達検査)について理解する。	浅岡 (7h)
	3　発達障害における評価について	評価(観察のポイント)について理解する。	
	4　発達障害とは	発達障害の定義を理解する。	渡邉 (4h)
	5　行動観察について	行動観察を理解する。	
	6　感覚統合評価について	感覚統合評価の基礎的な内容を理解する。	
	7　原因分析について	評価結果と問題点の関係について理解する。	
授業形態	講義・グループワーク、グループ発表		
教科書	岩﨑テル子他編　標準作業療法学　作業療法評価学　　看護のための人間発達学　第5版(医学書院) 配布資料		
参考書	岩崎清隆、岸本光夫著:発達障害と作業療法[基礎編]・[実践編], 三輪書店　　適宜紹介する		
評価方法	期末試験 (筆記試験);浅岡　50点 レポート・発表;加賀谷　25点、レポート;渡邉25点		
授業時間外の学習	加賀谷:配布資料や人間発達学などの教科書等で、正常運動発達に関する項目を確認する。 渡邉:講義後に1時間程度の復習を行うこと。 浅岡:授業前後に1時間程度の学習を行うこと。		
履修上の留意点	加賀谷:人間発達学・運動学・解剖学・発達障害関係の授業内容を十分復習しておくこと。 渡邉:発達障害の基礎的なことについて事前に学習しておくこと。 浅岡:予習として、人間発達学や解剖学で学んだ授業内容を確認しておくこと。		
担当者の実務経験	病院で発達障害領域の作業療法に従事		

授 業 要 項

令和6年度

科目名	作業療法評価学　演習				担当者	梅田　雄嗣　　平松　敦子　　藤部　百代			
学　年	2	学　期	後期	学　科	作業療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 [一般目標]	身体障害における評価および介助技術について、演習を通して習得する。 作業療法における面接技術において、演習を通して習得する。		
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]	担当者 （時間数）
	1　片麻痺機能検査	片麻痺機能検査の目的、方法、種類の説明と実施ができる	平松 （3h）
	2　模擬患者（脳血管障害・パーキンソン病）に対する検査・測定の説明	対象者（模擬患者）に対し、検査・測定の内容、目的、結果について説明することができる。	平松 （14h）
	3　模擬患者（脳血管障害・パーキンソン病）に対する検査・測定の実施	対象者（模擬患者）に対し、適切な方法で検査・測定を実施することができる。	
	4　検査・測定結果の記録と整理	検査・測定結果を適切に記録し、結果の整理をすることができる。	
	5　面接体験 ①他部門からの情報収集 ②家族構成、生活状況 ③主訴、希望	・設定された模擬患者に対し、技能面のポイントに沿って面接を実施することができる。 ・場面や状況によって異なる面接の目的や、必要な情報収集内容について理解することができる。 ・面接（観察含む）を通して得られた客観的情報を記録し、対象者の言動について考えることができる。 ・自己の面接者としての態度について客観的に振り返ることができる。	梅田・藤部 （13h）
授業形態	講義、グループワーク、発表、実技、演習		
教科書	標準作業療法学作業療法評価学、ゴールドマスターテキスト身体障害作業療法学第3版、 ベッドサイドの神経の診かた		
参考書			
評価方法	身体障害（平松）：レポート、実技テスト；55点 面接（梅田・藤部）：レポート；45点		
授業時間外の学習	身体障害：既習の関連科目の教科書やノートを用いた事前学習及び実技練習を行い、授業後は授業内容をまとめや実技の振り返り及び課題を行うこと。 面接：既習の関連科目で使用したプリントに目を通すなど30分程度の事前学習を行い、演習後は配布資料や教科書をもとに課題に取り組むこと。		
履修上の留意点	身体障害：実技演習時は臨床実習時と同様の服装、身だしなみとする。 面接：作業療法評価学Ⅰや作業療法評価学Ⅱ、作業療法評価学精神障害をふまえて授業を展開していることを念頭に取り組むこと。また、臨床実習を想定して、各演習に臨むこと。		
担当者の実務経験	病院で身体障害領域および精神障害領域の作業療法に従事		

授 業 要 項

令和6年度

科目名	神経障害作業療法治療学Ⅱ				担当者	横山　勝彦 棚瀬　智美　　濱川　麻美			
学　年	2	学　期	後期	学　科	作業療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 [一般目標]	神経難病、神経筋疾患、脱髄性疾患に関する基礎知識を整理し，主な疾患の症状や障害および経過を理解する。 神経難病の障害に対する作業療法の目的と各病期における作業療法の介入方法を理解する。 末梢神経損傷に関する基礎知識を整理し、作業療法の評価と治療ポイントを理解する。 脊髄損傷の病態と障害を理解し、疾患特性に応じた作業療法介入を理解する。

授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]	担当者 （時間数）
	1　脊髄小脳変性症の作業療法	脊髄小脳変性症の病態と症状について説明できる 脊髄小脳変性症の障害像について説明できる 作業療法の目的，評価項目，介入方法を説明できる	棚瀬 （2h）
	2　筋萎縮性側索硬化症の作業療法	筋萎縮性側索硬化症の病態と症状について説明できる 筋萎縮性側索硬化症の障害像について説明できる 作業療法の目的，評価項目，介入方法を説明できる	濱川 （4h）
	3　多発性硬化症の作業療法	多発性硬化症の病態と症状について説明できる 多発性硬化症の障害像について説明できる 作業療法の目的，評価項目，介入方法を説明できる	棚瀬 （2h）
	4　ギラン・バレー症候群の作業療法	ギラン・バレー症候群の病態と症状について説明できる ギラン・バレー症候群の障害像について説明できる 作業療法の目的，評価項目，介入方法を説明できる	濱川 （4h）
	5　末梢神経損傷の作業療法	末梢神経の構造・機能について説明できる。 末梢神経損傷の病態・障害について理解および説明できる。 OT評価・治療(各時期)について項目を挙げて説明できる。	棚瀬 （8h）
	6　脊髄損傷の病態	脊髄損傷に関わる病態・障害を理解し説明できる。	横山 （12h）
	6　評価法	脊髄損傷に対する作業療法評価の実際を理解し説明できる。	
	6　治療・管理法	脊髄損傷や二次的合併症の治療・管理の実際を理解し説明できる。	
	6　各期別のリハビリテーションの流れ	臨床場面における各期別のリハビリテーションの流れを理解し説明できる。	
	6　脊髄損傷のADL	ADL評価法、残存機能レベル別ADLの到達目標について理解し説明できる。	

授業形態	講義 横山：講義・グループディスカッション、実技
教科書	ゴールドマスターテキスト身体障害作業療法学第3版（メディカルビュー）　病気が見える　脳・神経 横山：脊髄損傷　リハビリテーションマニュアル第3版（医学書院）、事前配布資料
参考書	横山：田中宏太佳・園田茂編：動画で学ぶ脊髄損傷のリハビリテーション．医学書院
評価方法	期末試験（筆記試験）；棚瀬：40点、濱川：20点 期末試験（筆記試験）：横山40点、横山先生においては講義態度も加味する
授業時間外の学習	解剖学，生理学で学んだことを中心に、各疾患に関する事前学習を行うこと。授業後は配布資料や授業内容を元に復習や課題を行うこと。 横山：講義後は事前配布資料、参考書、講義内容を元に1.5時間程度の復習を行うこと
履修上の留意点	横山：上記の内容について解剖学、生理学、基礎運動学、作業療法評価法で学んだ内容を復習しておくこと。講義中の積極的な発言内容も評価対象とする。
担当者の実務経験	病院で身体障害領域の作業療法に従事

授 業 要 項

令和6年度

科目名	内部障害作業療法治療学				担当者	内藤　若菜　　小栗　知洋 棚瀬　智美　　平松　敦子			
学　年	2	学　期	後期	学　科	作業療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 [一般目標]	代謝異常（糖尿病）、循環器疾患、呼吸器疾患、がんに必要な基礎知識の整理と理解を深め、病態に沿った作業療法の目標と介入方法を理解する。		
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]	担当者 （時間数）
	1　糖尿病・慢性腎臓病に対する作業療法	糖尿病・慢性腎臓病に対する作業療法の評価、目標、アプローチの考え方を説明できる。	棚瀬 （2h）
	2　循環器疾患に対する作業療法	循環器の構造と機能を理解し説明できる。 循環器疾患に対する作業療法の評価、目標、アプローチの考え方を説明できる。	棚瀬 （8h）
	3　循環器疾患に対する作業療法の実際 実技演習	循環器疾患の状態像を理解し、症例を通して評価から治療までの作業療法の流れを理解し、説明できる。 評価や治療の実技を体験できる。	内藤 （4h）
	4　呼吸器疾患に対する作業療法	呼吸器の構造と機能を理解し説明できる。呼吸器疾患に対する作業療法の評価、目標、アプローチの考え方を説明できる。	棚瀬 （8h）
	5　呼吸器疾患に対する作業療法の実際 実技演習	呼吸器疾患の症例を通して、評価から治療までの作業療法の一連の流れを理解し、説明できる。 評価や治療に関する実技を体験できる。	小栗 （4h）
	6　がんに対する作業療法	がんの病態と障害像について説明できる。 がんの対象者に対する作業療法の評価、目標、アプローチの考え方を説明できる。	平松 （4h）
授業形態	講義、グループワーク、実技・演習		
教科書	ゴールドマスターテキスト身体障碍作業療法学第3版 病気がみえるvol.2　循環器(メディックメディア)、　病気が見えるvol.4　呼吸器(メディックメディア)		
参考書	解剖学・生理学の教科書及び授業資料		
評価方法	期末試験：棚瀬　70点 レポート課題；内藤　10点、小栗　10点、平松　10点		
授業時間外の学習	呼吸器、循環器に関する解剖生理学の予習プリントでの学習を行い、授業にのぞむこと		
履修上の留意点	評価方法や課題について授業内でオリエンテーションを行うため、留意すること。		
担当者の実務経験	病院で身体障害領域の作業療法に従事		

授 業 要 項

令和6年度

科目名	身体障害作業療法治療学演習Ⅰ				担当者	川瀬　美幸 平松　敦子　　藤部　百代			
学　年	2	学　期	後期	学　科	作業療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 [一般目標]	作業療法の臨床思考過程について学び、病態にあわせた情報収集、評価計画立案、評価結果の整理、問題点列挙の流れについて理解することができる。 一時的吸引（口腔内・鼻腔内・気管内吸引）の目的と適応、方法について学ぶ。		
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]	担当者 （時間数）
	1　作業療法の評価	急性期から生活期における作業療法の評価の考え方について理解することができる	藤部 （4h）
	2　臨床思考過程	疾患理解、情報収集～評価項目列挙までの流れを理解することができる	
	3　脳血管障害の疾患理解～情報収集	脳血管障害の疾患特性から、情報収集項目を考えることができる	平松 （10h）
	4　脳血管障害における評価計画立案	脳血管障害の疾患特性、情報収集項目を踏まえ、評価項目を考えることができる。	
	5　脳血管障害における評価結果の整理～問題点列挙	脳血管障害において、評価結果を整理し問題点を列挙することができる。	
	6　パーキンソン病(進行性疾患)の疾患理解～情報収集	パーキンソン病(進行性疾患)の疾患特性から、情報収集項目を考えることができる	藤部 （10h）
	7　パーキンソン病(進行性疾患)における評価計画立案	パーキンソン病(進行性疾患)の疾患特性、情報収集項目を踏まえ、評価項目を考えることができる。	
	8　パーキンソン病（進行性疾患）における評価結果の整理～問題点列挙	脳血管障害において、評価結果を整理し問題点を列挙することができる。	
	9　総括	身体障害の作業療法の治療計画の立案におけるポイントを説明できる	藤部 （4h）
	10　一時的吸引とは	呼吸器系の解剖生理を想起し、一時的吸引(気管内吸引、口腔・鼻腔吸引）が必要となる対象が理解できる	川瀬 （2h）
	11　吸引の目的、適応、方法	一時的吸引の適応と方法について理解できる 一時的吸引が必要な対象の思いを考えることができる	
	12　一時的吸引（気管内、口腔内・鼻腔内）の実際（演習）	モデル人形を使用して、一時的吸引（気管内吸引、口腔・鼻腔吸引）が実施できる	
授業形態	講義、グループワーク、発表　吸引演習　吸引DVD視聴		
教科書			
参考書	標準作業療法学　作業療法評価学、（医学書院） ゴールドマスターテキスト身体障害作業療法学第3版（メディカルビュー）　病気が見える　脳・神経		
評価方法	レポート：93点（藤部・平松）　吸引演習：7点		
授業時間外の学習	既習の関連科目で使用したプリントに目を通すなど30分程度の事前学習を行い、演習後は配布資料や教科書をもとに課題に取り組むこと。		
履修上の留意点	臨床実習を想定して臨むこと。 吸引、救急法では実技が行える服装で臨むこと。解剖学・生理学（呼吸器系の構造、機能）で学んだ内容を復習する。		
担当者の実務経験	病院で身体障害領域の作業療法に従事（藤部・平松）　病院での看護業務に従事（川瀬）		

授 業 要 項

令和6年度

科目名	精神障害作業療法治療学演習Ⅰ				担当者	福嶋　壮真　　梅田　雄嗣			
学　年	2	学　期	後期	学　科	作業療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 [一般目標]	主要な疾患に対する回復状態に応じた作業療法の治療・援助について理解する。 症例を通して精神障害分野における作業療法評価の臨床思考過程を理解する。 治療援助場面別の作業療法について理解する。		
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]	担当者 （時間数）
	1　神経症性障害	神経症の概念、分類、特徴について理解し、説明することができる。 神経症の回復過程に応じた作業療法の目的や治療について説明することができる。	梅田 （22h）
	2　摂食障害	摂食障害の概念、分類、特徴について理解し、説明することができる。 摂食障害の回復過程に応じた作業療法の目的や治療について説明することができる。	
	3　発達障害、知的障害	発達障害、知的障害の概念、分類、特徴について理解し、説明することができる。 発達障害、知的障害に対する作業療法の目的や治療について説明することができる。	
	4　精神保健福祉法 入院形態、社会資源	精神保健福祉法における入院形態や社会資源について説明できる。	
	5　一般情報等の見方・考え方	一般情報等からどのようなことがわかるかを理解することができる。	
	6　症例検討（入院療養） 情報収集、OTS評価計画	症例の情報をもとに、情報収集計画やOTS評価計画を立案することができる。	
	7　症例検討（入院療養） 評価まとめ	症例の評価結果から、ICFにて全体像を整理し、目標設定を行うことができる。	
	8　入院から地域移行における作業療法	入院から地域移行における流れの中で、社会資源をふまえて作業療法の支援内容について理解し、説明することができる。	福嶋 （8h）
	9　デイケアにおける作業療法	デイケアの機能・役割を学び、デイケアにおける作業療法士の支援内容について理解し、説明することができる。	
授業形態	講義、グループワーク、発表		
教科書	精神障害と作業療法　治る・治すから生きるへ　　新版（三輪書店） 作業療法学　ゴールドマスターテキスト　精神障害作業療法学（第3版）（メジカルビュー社）		
参考書	作業療法学全書　改訂第3版　作業治療学2　精神障害 標準作業療法学専門分野　精神機能作業療法学		
評価方法	期末試験：60点（福嶋25点、梅田35点）、レポート：40点（梅田）		
授業時間外の学習	既習の関連科目で使用したプリントに目を通すなど30分程度の事前学習を行い、演習後は配布資料や教科書をもとに課題に取り組むこと。		
履修上の留意点	前期に履修した精神障害作業療法治療学の他に、精神障害作業療法評価学、作業療法評価学演習と連動しながら授業が展開していることを念頭に取り組むこと。		
担当者の実務経験	病院で精神障害領域の作業療法に従事		

授 業 要 項

令和6年度

科目名	高齢期作業療法治療学				担当者	棚瀬　智美　　梅田　雄嗣			
学　年	2年	学　期	後期	学　科	作業療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 [一般目標]	高齢者の特性と高齢者を取り巻く心理社会的背景、高齢者の日常生活課題を理解する。 高齢者に対する作業療法の評価・援助方法を理解する。		
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]	担当者 （時間数）
	1　老年期の生活	高齢者の定義、高齢者社会、高齢化率について、現状の社会情勢と合わせ理解し説明できる。 高齢者がかかえる課題について理解し説明することができる。 高齢者に関係する社会福祉施策について、時代の変化に合わせ理解し説明することができる。	棚瀬 （6h）
	2　加齢に伴う変化	老化とは何かについて説明できる。 高齢者の運動機能・生理機能・精神心理面の特性を機能ごとに整理し、説明することができる。	梅田 （10h）
	3　高齢者体験	擬似的に高齢者の身体機能を体験する。 高齢者の身体面・精神面について老化と関連付けて検証し、自分の考えを説明することができる。	
	4　高齢者の日常生活課題	高齢者のADL・IADL場面におけるさまざまな問題について、知識と体験を結びつけて説明することができる。	
	5　社会保障制度と作業療法	高齢者に対する社会制度について理解し説明することができる。 介護保険制度について、認定までの流れとサービスの概要を理解し説明することができる	棚瀬 （6h）
	6　老年期作業療法	高齢者に対する作業療法の役割と機能について理解し説明することができる。 高齢者の人権について理解し説明することができる。 高齢者の特徴を捉え、全体像をイメージし説明することができる。	棚瀬 （8h）
授業形態	講義、グループワーク、体験、発表		
教科書	標準作業療法学　専門分野　高齢期作業療法治療学第4版　医学書院		
参考書			
評価方法	期末試験（筆記試験）;90点（棚瀬:67点、梅田:23点）、高齢者体験レポート;10点		
授業時間外の学習	高齢者体験のレポートを作成する（別途オリエンテーションを行う）。		
履修上の留意点	基礎運動学および解剖学・生理学の内容に基づいて授業が行われるため、事前に基礎知識も整理が必要となることを念頭において取り組むこと。		
担当者の実務経験	病院で作業療法に従事		

授 業 要 項

令和6年度

科目名	日常生活活動学演習				担当者	濱川 麻美　平松 敦子			
学 年	2	学 期	後期	学 科	作業療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 [一般目標]	日常生活活動の障害に対する介助法や評価法を体験し、各特徴を理解し説明することができる。		
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]	担当者 （時間数）
	1 脳血管疾患患者の日常生活活動	脳血管疾患患者におけるリスク管理、各動作の基礎としてのリーチ・バランス能力、食事動作、整容動作、更衣動作、排泄動作、入浴動作、家事動作について体験し、各特徴を理解し説明することができる。	濱川 （8h）
	2 脊髄損傷患者の日常生活活動	脊髄損傷の病態や疾患の特徴、二次的合併症、リスク管理について理解する。また、基本動作や日常生活動作について体験し、各特徴を理解し説明することができる。	濱川 （4h）
	3 自助具の理解	自助具を理解し、適切な処方と安全面へ配慮した自助具の選定をすることができる。	濱川 （4h）
	4 ADL評価	各動作の工程を理解し、工程に沿って観察・評価をすることができる。	濱川 （6h）
	5 片麻痺患者の起居動作について（演習）	起居動作とは何かを理解した上で、正常動作を分析し、説明することができる。その上で、介助ポイントを押さえて実際に介助を行うことができる。	平松 濱川 （8h）
	6 片麻痺患者の移乗動作について（演習）	片麻痺患者のベッド・車椅子間の移乗動作（全介助）の自分自身の身体の使い方、リスク管理について学び、実際に行うことができる。	
	7 片麻痺患者の坐位とシーティングについて （演習）	片麻痺患者の坐位肢位について学び、シーティングの定義、目的、評価の視点を理解した上で、適切なシーティングについて実際に行うことができる。	
	8 実技演習（片麻痺、円背）	ポジショニングの定義、目的、評価の視点を学び、実際に行うことができる。 片麻痺の起き上がり、杖歩行、階段昇降を動作分析し、説明することができる。	
授業形態	講義および実技、グループワーク、発表		
教科書	新版　日常生活活動（ADL）―評価と支援の実際―,医歯薬出版株式会社 実践リハビリテーション・シリーズ　脳卒中の機能評価－SIASとFIM〈基礎編〉,金原出版社 脊髄損傷　リハビリテーションマニュアル第3版－医学書院		
参考書	活動分析アプローチ　中枢神経系障害の評価と治療,青海社 日常生活活動の分析―身体運動学的アプローチ,医歯薬出版株式会社 I・ADL　作業療法の戦略・戦術・技術,三輪書店		
評価方法	期末試験（筆記試験）;63点（濱川） レポート;10点（濱川）、27点（濱川、平松）		
授業時間外の学習	実技に関しては、講義後に復習を行うこと。 前期日常生活活動の講義の復習と講義後の知識の整理。		
履修上の留意点	脳血管障害、脊髄損傷の病態について復習を行うこと。		
担当者の実務経験	病院で作業療法に従事		

授 業 要 項

令和6年度

科目名	地域作業療法学				担当者	棚瀬　智美			
学　年	2	学　期	後期	学　科	作業療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 [一般目標]	地域リハビリテーションの理念とシステムおよび地域における作業療法について学ぶ。また、対象者が地域で生活する上で必要な制度や施策といった基本的知識や在宅における生活障害の捉え方・考え方を習得する。		
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]	担当者 (時間数)
	2　地域リハビリテーション/地域作業療法	・地域リハビリテーションの概念をノーマライゼーションの歴史や理念に関連付けて理解し説明することができる ・地域作業療法の概念を理解することができる ・地域作業療法学における生活の捉え方を理解することができる	4h
	3　地域作業療法を支える制度・施策	・障害者の定義について説明することができる ・障害者総合支援法について、手続きと流れ、サービスの概要について理解し説明できる。 ・介護保険制度における訪問リハビリテーション、通所系サービスの概要について理解し説明することができる	8h
	4　多職種の連携と協働	・地域における職種の連携と協働について、地域包括ケアシステムを通し、理解することができる ・作業療法士と連携する職種の役割について理解し説明できる	4h
	5　地域作業療法における評価	・対象者の生活を捉えるための評価の視点を理解し、評価する項目を列挙し、説明することができる。 ・地域作業療法におけて、依頼～アセスメント～援助目標設定～実際の支援までの流れを説明できる	4h
	6　住環境整備と福祉用具	・介護保険制度と障害者総合支援法における福祉用具の給付について説明することができる ・住環境整備の方法や考え方について理解し説明できる ・事例に基づいて、環境整備の考え方を理解し説明できる	10h
授業形態	講義、グループワーク、発表		
教科書	作業療法学講座　地域作業療法学（医歯薬出版株式会社）		
参考書	新版　日常生活活動（ADL）―評価と支援の実際―　　医歯薬出版株式会社		
評価方法	期末試験（筆記）100点		
授業時間外の学習	授業後は配布資料や授業内容でわからない用語は、確実に調べ理解しておくように進めること		
履修上の留意点	高齢期作業療法学と関連が強い科目		
担当者の実務経験	病院で作業療法に従事		